

2025年度活動報告書（計画対比）

重点施策

1. ITTOUーPJ（いっとうプロジェクト）の推進：東信地域内の耕畜連携、農工商連携事業により蓼科牛自給飼料と地域食料自給率の向上を計る。（東信スマート・テロワール計画のスタートアップ事業となる。）これを継続する。
2. 高校生に農学を勧める事業：信州大学農学部と八ヶ岳中央農業実践大学校のオープンキャンパスの斡旋と送迎をする。（4年目）
3. シリーズ研究会の開催：2022年度にスタートした。毎月第三木曜日（原則）に開催する。継続する。
4. 佐久青年会議所の青少年プログラム（角田会員が委員長）をサポートする。
5. クラウドファンディングへの取組み：広い社会からの支援をお願いする。今年度中に実施する。
6. 「分散型ホテル事業」を新規事業として計上する。今までも言及していましたが、空き家活用には有効なので正式に計上する。

事業別計画書

事業名	具体的な事業内容	2025年度 計画	2025年度実績
組織強化事業	会員の増強	志ある人をお誘いする。	増員できなかった。
	賛助会員の増強(資金集め)	志ある人をお誘いする。 クラウドファンディングに挑戦する	増員できなかった。 クラウドファンディングへの取り組みは検討の結果、取りやめた。理由は、必要資金が数十万円と少額だから。
	パンフレットの作成、冊子作成	「豊かな農業と地域づくりの提案Ⅱ」の作成と配布を行う。	できなかった。資金稼ぎのための本の執筆を始めたため。
	スマート・テロワール協会と連携	オンラインセミナーへの参加は続ける。	偶数月に行われているオンラインセミナーには毎回会員に案内し参加している。
	諸団体との連携推進	ITTOUーPJ を軸にして、連携を模索する。	角田大徳会員の佐久青年会議書における活動と連携 葉乃畑合同会社（軽井沢の落ち葉腐葉土化事業）や自然農の軽井沢ファームヴィレッジ（坂本・長崎智）、信州森のファーム（菊池千春社長）とのパイプができた。
	ホームページの更新	随時、行う。	2回行った。

研究学習事業	シリーズ研究会	継続する。	基本は第3木曜日の午後。参加者は2～5名を少なかったが、毎月おこなった。
	外部セミナー、視察等、参加・企画	飯豊町（「スマート・テロワール」の原点の町）の視察を行う。 佐久青年会議所の青少年プログラム（角田会員が委員長）をサポートする。	4/25：設立25周年記念講演「美しい村からスマート・テロワールへ」高橋弘之講師（山形県飯豊市） 9/20軽井沢町中央公民館「荻原豊次と食の未来を考える集い」にて、安江が講演。 10/17葉乃畑合同会社の腐葉土プラント・軽井沢ファームヴィレッジを視察 2/13南牧村の信州森のファーム（菊池千春社長）視察
	書籍販売	ホームページとブログにより広報活動が続ける。	「スマート・テロワール 農村消滅論からの大転換」の中古本を仕入れ、講師などに贈呈。
	東信地域の食料自給率の調査	可能性を探る。	できなかった。
農工連携事業	りんごを生かした地域振興	会員の活動をブログに掲載するため、原稿を募集する。	できなかった。
	ワインの銘醸地としてのスマート・テロワールづくり	「スマート・テロワール」を理解する生産者を発掘する。	発掘できなかった。
耕畜連携事業	ITTOU—PJ の推進サポート	飯豊町（「スマート・テロワール」の原点の町）の視察を行う。	いっとう代表取締役角田大徳会員と毎月提起ミーティングを行い、農工商連携の研究会を重ねている。
高校生に農学を勧める事業	将来の農業経営者を育てるため、東信地域の全高校に農業の有望性を示し、農学部への進学を勧める。	今年度も継続する。	7/20 信大農学部へ、高校生6名参加。 9/21 八ヶ岳農業大学校へ、参加者なし。 11/25 地球環境高等学校にて、安江が高校生に講演「生物は微生物によって生かされている」。アンケート結果が、生徒が農業に関心を向けたことが伺えた。
分散型ホテル事業	イタリアで始まった空き家活用システム「アルベルゴ・ディフーズ」を導入	空き家の活用として、自治体や空き家推進団体に呼びかける。	できなかった。